

01 ごあいさつ

03 特集 トーセイの価値創造事例:再生プロジェクト

04 2026年11月期上半期の事業トピックス

05 事業ハイライト

07 株主還元について／

株主の皆さまとのコミュニケーション広場

09 連結財務データ

10 コーポレートデータ

都市に、心を。





一中期経営計画最終年度の総仕上げと持続的成長へー 上半期は主力事業が牽引し、 税引前利益は通期計画の91.5%まで進捗

株主の皆さまには、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。トーセイグループは、“グローバルな発想を持つ心豊かなプロフェッショナル集団としてあらゆる不動産シーンにおいて新たな価値と感動を創造する”という企業理念のもと、総合不動産会社として、不動産の再生や開発および不動産関連ソリューションの提供などの幅広い事業を展開しています。

今回ご報告いたします2026年11月期上半期において、当社グループの主要市場である国内不動産投資市場は、引き続き国内外投資家による活発な投資活動が見られま

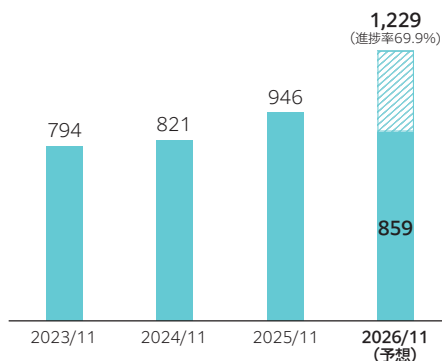
2026年11月期上半期業績サマリー

上半期は、主力事業の再生事業が売上高・利益を牽引し、売上高は859億円（通期予想に対する進捗率69.9%）、税引前利益201億円（同91.5%）まで伸長しました。2026年11月期の業績見通しは、売上高1,229億円（前期比29.9%増）、営業利益246億円（同10.2%増）、税引前利益220億円（同6.6%増）、親会社の所有者に帰属する当期利益151億円（同2.7%増）を予定しています。

売上高

（単位：億円）

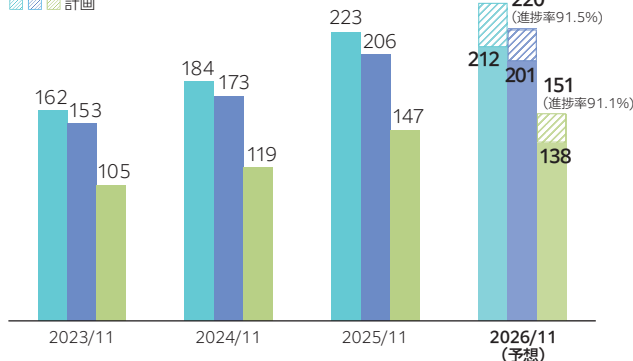
■ 売上高 ■ 計画



利益

（単位：億円）

■ 営業利益 ■ 税引前利益 ■ 当期利益*



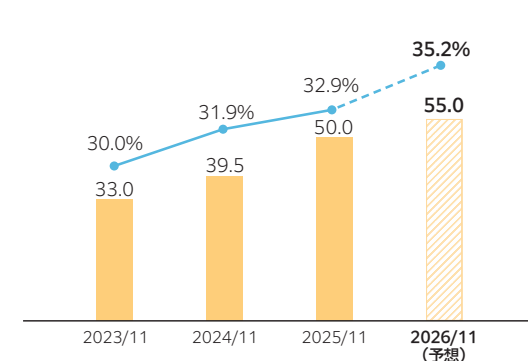
*親会社の所有者に帰属する当期利益

配当予想について

当社は株主の皆さまへの安定的な利益還元を経営の重要課題のひとつとして認識しています。2026年11月期の配当予想は、配当性向の引き上げと利益成長により、前期比5円の増配となる1株当たり55円を予定しています。

配当金推移

■ 1株当たり配当金* (円) ■ 配当性向 (%)



*2025年12月1日効力発生の株式分割(2分割)を踏まえ、株式分割後の基準の数値を記載

した。オフィスマーケットでは新規供給の少なさによる賃貸需要の逼迫や物価上昇分の賃料転嫁など、中長期的な賃料上昇期待が旺盛な投資意欲につながっています。また、ホテル市場は円安環境を追い風にしたインバウンド需要が続いており、活況を呈しています。一方、昨今の金融市場は日銀の利上げや長期金利の上昇などが不動産市場に与える影響について無視できない状況であり、動向を注視してまいります。

このような事業環境のなか、2026年11月期上半期は、特に当社の主力事業である不動産再生事業が業績を牽引しており、建築費の高騰への対応として不動産開発事業から不動産再生事業に投資を戦略的にシフトしたことが奏功しました。また、不動産ファンド・コンサルティング事業において、アセットマネジメントの受託資産残高（AUM）は総額2.73兆円にのぼり、昨今一層の投資意欲がみられる国内外機関投資家の日本国内不動産への投資のパートナーとして、着実に成果を積み上げています。

これらの各事業における取り組みにより、当上半期の当社グループの売上高は、通期計画に対する進捗率が69.9%、同じく税引前利益の進捗率は91.5%と非常に好調に推移しています。株主の皆さまへの還元につきましても、当初の計画である配当性向35%以上の維持に向け、安定的な配当の実施に努める方針です。

今期は3カ年の中期経営計画「Further Evolution2026」の最終年度であり、下半期は中期経営計画の総仕上げとして既存6事業の進化と成長を目指して邁進いたします。そして、不動産事業の成長性と安定性を両立させるポートフォリオ経営と豊富なアセットバリエーションを武器にマーケットの変化に敏感に対応し、ステークホルダーの皆さまのご期待にお応えしてまいります。今後とも、より一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

代表取締役社長 山口 誠一郎

トーセイのコア・コンピタンス

“多様なソリューション力を持つユニークな不動産ポートフォリオマネージャーとして、サステナブルな社会の実現に貢献する”という長期ビジョンの実現に向けて、グループ一丸となってコア・コンピタンスのさらなる増強を目指します。

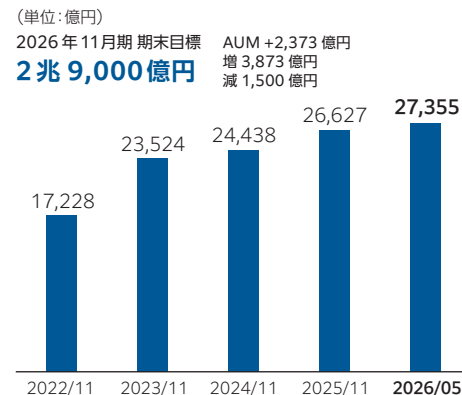
トーセイグループのコア・コンピタンス



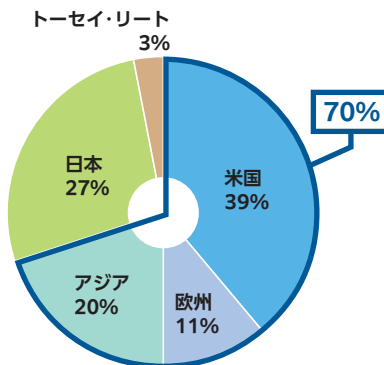
アセットマネジメント受託資産

不動産ファンド・コンサルティング事業におけるアセットマネジメント受託資産残高は、2兆7,355億円（前期末比+727億円）まで伸長しました。受託資産の国別割合は、米国をはじめとする海外投資家で70%を占めています。国内外の投資家からのニーズに機動的に対応することで、運用パフォーマンス向上と投資家の利益最大化に努め、グローバルにおける信頼獲得に努めています。

受託資産残高（AUM）の推移



受託資産の国別割合



特集 トーセイの価値創造事例：再生プロジェクト

トーセイグループの主力事業である不動産再生は、新築開発に比べて解体や改修時におけるCO₂の排出量が少ないことなどから、現代の環境課題へ貢献するビジネスのひとつです。また、首都圏には築30年を超える多くの中小ビルが所在し、市場価値が低下した築古のビルや空ビルなどの遊休不動産の再生および活用は、地域社会の治安を守り、経済の活性化をもたらす観点でも社会に貢献します。

大規模バリューアップ 溝の口トーセイビルⅡ

長期にわたり活用されていなかった旧研修施設を1棟丸ごと取得し、大規模改修を敢行



溝の口トーセイビルⅡ

「溝の口トーセイビルⅡ」は、大小様々な会議室や講堂、食堂などを備えた研修所として建設された建物で、約10年にわたり空ビル状態が続いていました。当社が取得後、既存の施設や機能を最大限活かしつつ、大規模な改修を行いました。

その後、事務所や研修施設として使用できるビルとして販売活動を行い、2026年2月、米国の日本校に売却しました。今夏には学生が集う校舎に生まれ変わります。

バリューアップ事例：食堂→フリースペース

Before



After



食堂だった空間をスタイリッシュな
フリースペースにバリューアップ

PJ担当者の声



アセットソリューション
第4本部第2事業部
チームリーダー
今野 綾

本物件の取得からバリューアップ、販売までを担当しました。大型の改修案件に携わるのは初めてだったので、エントランスやラウンジ、食堂などの改修メニューやデザインの検討、あらゆる設備の点検など、再生に関わる多くの工程を学ぶことができ、大変貴重な経験となりました。大規模改修を通じて、空ビルだった本物件が学生で賑わう新たな街のシンボルとなり、地域の活性化にも貢献できたことに大きなやりがいを感じています。

ホテルコンバージョン トーセイホテル ココネ蒲田

築年数の経過したオフィスビルに新たな命を吹き込み、
ホテルへとコンバージョン

2025年12月にオープンした「トーセイホテル ココネ蒲田」は、羽田空港から約20分とアクセスが良好であり、インパウンドの団体客による長期滞在から、国内の観光・ビジネス利用まで幅広い宿泊ニーズに対応しています。

本ホテルは築34年のビルを1棟で取得し、2階以上の空きフロアを全面改修し、ホテルにコンバージョン(用途変更)したものです。建物の構造を最大限活用しながら大浴場やサウナなどを新設し、ホテルとしての魅力を高める再生を実現しました。



トーセイホテル ココネ蒲田

バリューアップ事例：執務室→客室

Before



After



建物の特徴である大型の窓を活かし、
開放的な客室デザインを採用

木造アパート新ブランド「T's Cuore BLISS(ブリス)」の竣工

当社では、開発事業を取り巻く事業環境の変化を的確に捉え、都内エリアを中心に2023年より木造賃貸アパート「T's Cuore」の販売を開始し、現在も注力事業として積極的に商品展開を拡大しています。

さらなる付加価値の創造によって、より競争力の高い商品づくりを目指し、2026年2月には「T's Cuore BLISS自由が丘」が誕生しました。「T's Cuore BLISS」は、“コストで選ぶ”のではなく、“好きだから選ぶ”という価値観への転換を目指したライフスタイル提案型アパートです。

今後も継続して土地の特性や顧客ニーズを検証し、良質な賃貸住宅の供給に努めてまいります。



T's Cuore BLISS自由が丘

T's Cuore BLISS自由が丘

[木造3階建、総戸数6室(1フロア2室)、1R~1LDK:各部屋30~35㎡]



3F:天井高約3m確保しロフトを採用



2F:壁一面に書棚を設置



1F:アイランドキッチンを配したダイニング

開発事業役員の声



執行役員
アセットソリューション
第3本部担当兼本部長
石田 史郎

開発事業の最大の強みは、市場の変化に応じて幅広い用途や規模の商品を柔軟に企画・開発できる点にあります。鉄筋コンクリート(RC)造の建築費が高騰する中、木造アパートの開発を積極的に推進しており、「T's Cuore」シリーズはリーシング・販売ともに順調に進捗しています。防音室を設置した「T's Cuore MUSE」を含め、付加価値型シリーズの展開を今後も強化してまいります。

中古区分マンション事業の投資戦略

当社グループでは、再生事業の一環として中古区分マンション売買を展開しています。

金利上昇に伴う市場環境の変化や昨今の中国経済の減速等を踏まえ、主力となる商品価格帯・投資対象エリアを見直しました。現在は従前の都心5区に加え、世田谷区や目黒区などを含む9区に拡張し、さらなる仕入れ機会の確保と事業拡大を図っています。



ザ・トキョータワーズ シータワー

名古屋鉄道株式会社との共同事業の推進

2024年5月の資本業務提携に基づき、「首都圏・名古屋圏における共同投資」や「不動産テックビジネスの協働」などを推進しています。

■新築分譲マンション事業

名鉄都市開発株式会社が開発した新築分譲マンションへの共同投資を行い、2026年4月より販売活動を開始しました。

「プレティナレジデンス浅草」は東武スカイツリーライン、東京メトロ銀座線をはじめ4駅4路線を利用できる好立地に所在。最新の設備・仕様やセキュリティを備え、都市の生活利便性と浅草ならではの伝統・文化を享受できる上質な住まいを提供しています。



プレティナレジデンス浅草

連結業績

売上高

859.5 億円

前年同期比 **30.1%増** ↗

営業利益

212.1 億円

前年同期比 **20.5%増** ↗

税引前利益

201.4 億円

前年同期比 **19.9%増** ↗

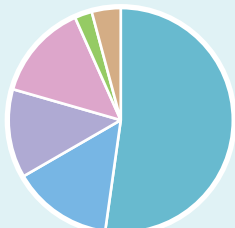
中間利益*

138.0 億円

前年同期比 **12.9%増** ↗

*親会社の所有者に帰属する中間利益

営業利益構成比



- 不動産再生事業
- 不動産開発事業
- 不動産賃貸事業
- 不動産ファンド・コンサルティング事業
- 不動産管理事業
- ホテル事業



不動産再生事業

営業利益構成比

51.3%

中古の不動産を取得し、安全性・快適性・環境配慮を意識した改修や稼働率向上などのバリューアップを実施した「再生不動産」を販売する事業です。

売上高 **562.5** 億円

前年同期比 **93.2%増** ↗

営業利益 **118.5** 億円

前年同期比 **113.8%増** ↗

- ◆ 1棟物件38棟、区分マンション82戸を売却
- ◆ バリューアップを施した20億円以上の大型物件5棟を上場REITや一般法人等に売却

販売物件の事例



八丁堀トーセイビルⅢ



TOSEI HOTEL & SEMINAR 幕張
(ホテル運営を継続)



T's garden 府中



不動産開発事業

営業利益構成比

14.2%

開発用地を取得し、エリア特性やニーズに合わせて、オフィス・マンション・アパート・戸建住宅・商業施設・ホテル・物流施設などの新築開発を行い、販売する事業です。特に住宅の開発では、SDGsへの貢献を意識した設備仕様を導入し、人にも地球にもやさしい住まいづくりを目指しています。

売上高 **125.3** 億円

前年同期比 **38.2%減** ↘

営業利益 **32.8** 億円

前年同期比 **44.1%減** ↘

- ◆ 減収減益となるが、期初計画通りの進捗
- ◆ 建築費の高騰が続く中、戦略的に開発事業の取扱高を抑制し、再生事業を伸長
- ◆ 商業施設、賃貸マンション、木造賃貸アパートを計10棟売却、エンドユーザー向けに分譲戸建等を35戸売却

販売物件の事例



T'S BRIGHTIA 吉祥寺
(商業施設)



THE PALMS 錦糸町
(賃貸マンション)



T's Cuore MUSE 東長崎
(防音型木造賃貸アパート)



不動産ファンド・コンサルティング事業

営業利益構成比

13.7%

国内外の投資家から不動産ファンドの資産管理（AM）業務を受託し、不動産の運用管理を行う事業です。また、一般事業会社に対する不動産コンサルティングや不動産仲介などのサービスも行っています。

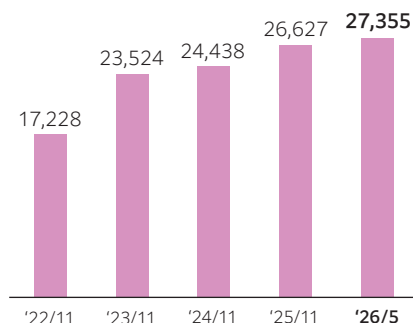
売上高 **48.6** 億円
前年同期比 **3.9%減** ↓

営業利益 **31.6** 億円
前年同期比 **10.6%減** ↓

◆ 新規受託は2,265億円、売却は1,537億円となり、AUMは2兆7,355億円（前期末比+727億円）

◆ 活況な投資市場を背景に、機関投資家による売却が先行し、想定を上回るディスポジションフィーを獲得

受託資産残高（単位：億円）



不動産管理事業

営業利益構成比

2.4%

オフィス・マンション・ホテルなどの建物・設備管理、保安警備、テナント管理・リーシングなど、総合的なプロパティマネジメントを行う事業です。

売上高 **45.0** 億円
前年同期比 **0.1%増** ↑

営業利益 **5.6** 億円
前年同期比 **14.3%減** ↓

◆ グループ外から新規受託にも注力し、上半期末時点の管理受託棟数は987棟（前期末比+18棟）

◆ 受託先の不動産オーナーに対して提案営業を積極的に行い、改修工事等を多数受託。また、テナントリーシングに伴う手数料も多く獲得



不動産賃貸事業

営業利益構成比

12.4%

首都圏を中心に、当社グループが所有するオフィスビルやマンションなどを賃貸し、安定的な収入を得る事業です。

売上高 **48.9** 億円
前年同期比 **12.8%増** ↑

営業利益 **28.6** 億円
前年同期比 **24.5%増** ↑

◆ 保有する賃貸物件は127棟（うち固定資産は24棟）

◆ 棚卸資産・固定資産の収益性向上に努め、賃貸収入は増加

◆ 上半期末時点の固定資産の稼働率（面積ベース）は98.4%



ホテル事業

営業利益構成比

6.0%

東京都区部を中心にホテルを保有し、運営収入や賃貸収入を得る事業です。

売上高 **39.3** 億円
前年同期比 **6.5%増** ↑

営業利益 **13.8** 億円
前年同期比 **9.2%減** ↓

◆ 中国からの旅行客の減少があったものの、その他アジアや欧米からの訪日需要に支えられ、ホテル運営の重要な利益指標であるGOPは21.7億円まで伸長

◆ 今期開業の蒲田と千葉中央ホテルも順調に稼働しており、上半期における保有全ホテルの平均稼働率は87.3%

開発パイプライン（今後開業予定）

エリア	客室数（計画）※
1 茅ヶ崎市 茅ヶ崎	96
2 中央区 入船	47
3 鎌倉市 小町	24
4 台東区 秋葉原	72
5 中野区 中野	26
6 中央区 新川	80
7 台東区 上野	93

※客室数は計画が変更になる可能性があります。

株主還元

■ 配当金

2026年11月期(期末予想) **55.0円** 2025年11月期(期末) 50.0円
 2024年11月期(期末) 39.5円

*2025年12月1日効力発生 of 株式分割(2分割)を踏まえ、株式分割後基準の数値を記載

■ 株主優待 株主さまの当社株式保有状況に応じて、以下の優待品を贈呈いたします。

保有 株式数	継続保有期間	優待内容	
		オリジナルQUOカード	ホテル宿泊割引券
2单元 (200株) 以上	1年未満	—	3,000円分
	1年以上2年未満	1,000円分	
	2年以上5年未満	2,000円分	
	5年以上	3,000円分	

※毎年11月30日を基準日として年1回実施。発送は2月下旬頃となります。

※2025年12月1日を基準日として実施された株式分割(1株→2株)に伴い、2026年11月権利日より優待の保有株式数基準が100株から200株に変更となりました。

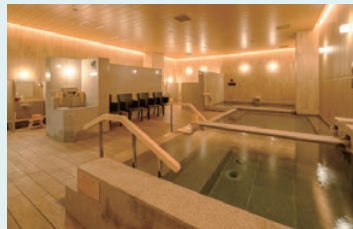
トーセイホテル ココネの特徴

ホテル宿泊割引券をご利用いただけるトーセイホテルココネは、浅草・上野・築地など東京を中心に9店舗を展開しており、いずれも最寄り駅や観光地へのアクセスが良好な都市型ホテルです。

ホテルにより畳の小上がりやファミリールームなど、多彩な客室タイプをご用意しています。



- ・和モダンを基調とした落ち着いた空間
- ・シモンズ社製のベッドで快適なホテルステイ
- ・大浴場を完備(浅草蔵前、鎌倉、築地銀座プレミア、蒲田)



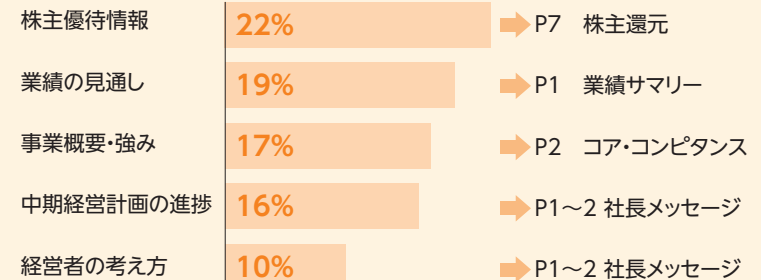
詳細はトーセイホテルココネの公式サイトをご確認ください <https://tosei-hotel.co.jp/>

株主さまアンケート
集計結果のご報告

2025年11月期「TOSEI REPORT」の
ここでは、お寄せいただいたご質問・ご

「TOSEI REPORT」で、特に充実を希望する情報

(複数回答可、上位5位)



アンケートにお寄せいただいた皆さまの声

ホテル事業の拡大に
期待しています。

業績、利益、配当
ともに右肩上がりなので
今後の成長に
期待しています。

長期で応援
しています!

今後も株主優待の
継続を
お願いします。

オリジナルな
優待券で好きです。

このほかにもたくさんの声
をお寄せいただきました!

アンケートにおいて869名の株主の皆さまより貴重なご意見・ご感想をいただきました。
要望の一部をご紹介します、お答えいたします。

Q インフレと少子高齢化で不動産価格や資材・人件費が高騰し、複数の鉄道会社では再開発が中止されるまでになっているが、足元の状況と今後の見通しや対応について、詳しく説明してほしい。
(40代)



A 開発事業においては、現在は鉄筋コンクリート造の取り扱いを抑えて、建築費の上昇幅が比較的少ない木造アパートや戸建の開発に注力しています。

主力の再生事業を中心に、市場環境を考慮したポートフォリオ経営を引き続き行ってまいります。P1-2の社長メッセージやP5事業ハイライトにおいて再生事業への戦略的シフトとその成果について紹介しています。



Q 働く人の声が聞きたい
(40代) / 社員インタビューを載せてほしい
(50代)



A P.3の溝の口トーセイビルⅡのバリューアップ事例とP.4の木造賃貸アパート事例で社員インタビューを掲載しました。ぜひご覧ください。



PR活動のご紹介

株主の皆さまより、看板や広告に関する嬉しいお声をたくさんいただきました。

- ・街中で最近トーセイの看板を見かけることが多く株主として嬉しくなります。
- ・地下鉄の階段で地上に上がるときに広告を目にすると、いつもワクワクします。

テレビCM、屋外、駅構内看板など、様々な広告活動に取り組んでいます。2026年8月には東京駅構内の看板をリニューアルしました。



東京駅構内看板デザイン

看板特集

当社では現在、渋谷、表参道、六本木、恵比寿、上野等に屋外看板を掲出しています。
お近くにお立ち寄りの際は、ぜひご覧ください。



渋谷協和ビル看板



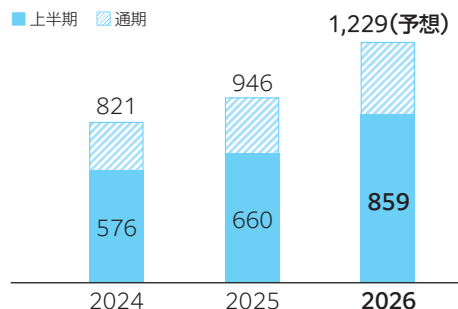
青山246ビル看板(表参道)



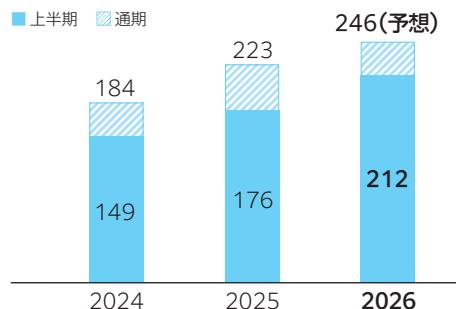
フォンテ六本木看板

● 包括利益計算書 (損益計算書)

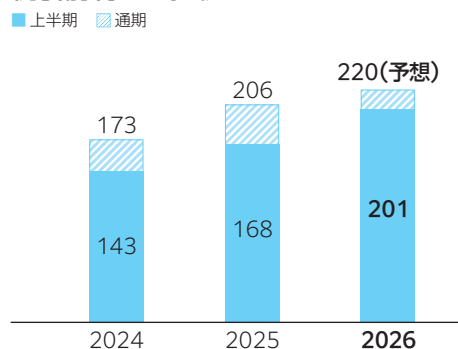
売上高の推移 (単位: 億円)



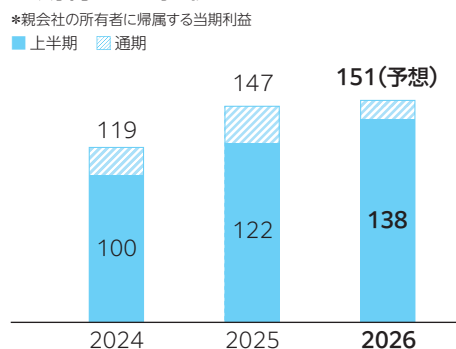
営業利益の推移 (単位: 億円)



税引前利益の推移 (単位: 億円)



当期利益*の推移 (単位: 億円)

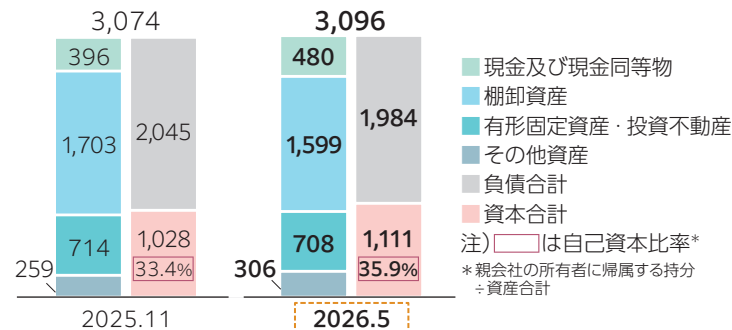


● 経営指標

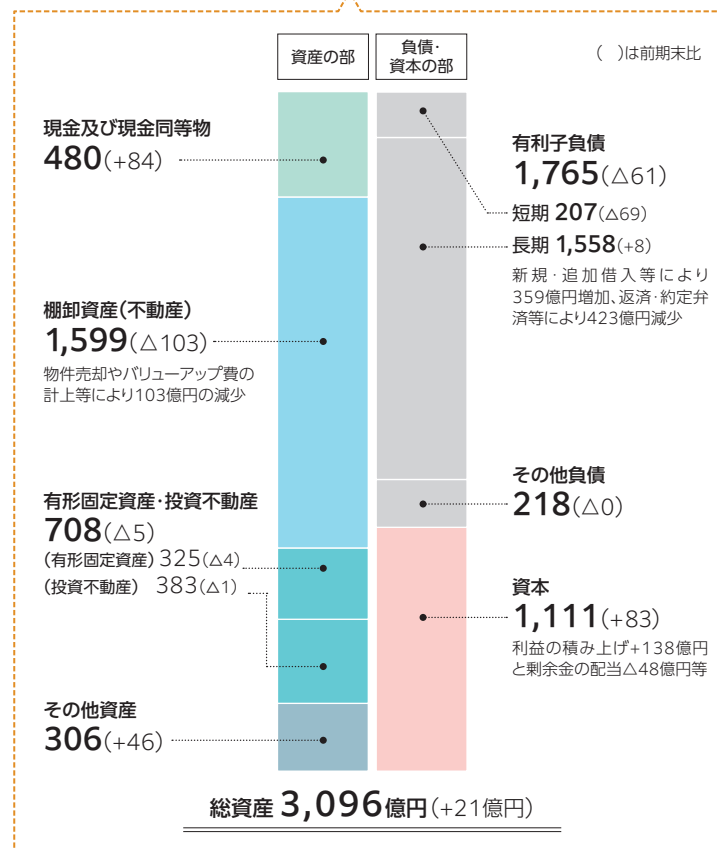
	2024	2025	2026 (予想)
親会社所有者帰属持分当期利益率 (ROE) (%)	13.9	15.3	14.0%
資産合計税引前利益率 (ROA) (%)	6.7	7.1	—
基本的 1株当たり当期利益 (EPS) (円)	247	152	156
1株当たり親会社所有者帰属持分 (BPS) (円)	1,867	1,060	—
親会社所有者帰属持分比率 (自己資本比率) (%)	32.7	33.4	35%程度
ネットD/Eレシオ (倍) *	1.45	1.39	1.4倍程度
安定事業比率 (営業利益ベース) (%)	50.5	54.4	45%以上

* ネットD/Eレシオ = (有利子負債 - 現金及び現金同等物) ÷ 当期末親会社の所有者に帰属する持分
 (注) 当社では不動産賃貸事業、不動産ファンド・コンサルティング事業、不動産管理事業、ホテル事業を「安定事業」と位置づけています。

● 財政状態計算書 (貸借対照表) (単位: 億円)



注) □ は自己資本比率*
 * 親会社の所有者に帰属する持分 ÷ 資産合計



●会社概要

商号	トーセイ株式会社
代表者	山口 誠一郎
設立	1950年2月2日
所在地	東京都港区芝浦4丁目5番4号
資本金	6,624,890千円
上場金融商品取引所	東京証券取引所プライム市場(証券コード:8923) シンガポール証券取引所メインボード(証券コード:S2D)
従業員	345名(連結938名) (嘱託・パート社員含む 1,121名)
事業内容	不動産再生事業、不動産開発事業、不動産賃貸事業、不動産ファンド・コンサルティング事業、不動産管理事業、ホテル事業
主要な関連会社	トーセイ・コミュニティ株式会社 トーセイ・アセット・アドバイザーズ株式会社 トーセイ・ロジ・マネジメント株式会社 トーセイ・ホテル・マネジメント株式会社 トーセイ・ホテル・サービス株式会社 トーセイ・プリンセススクウェア株式会社 Tosei Singapore Pte. Ltd.

●役員

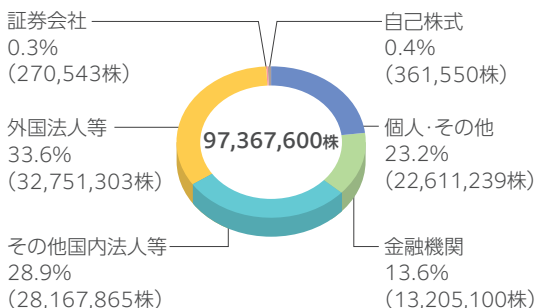
代表取締役社長 執行役員社長	山口 誠一郎
取締役専務執行役員	平野 昇
取締役専務執行役員	中西 秀樹
取締役常務執行役員	山口 俊介
取締役常務執行役員	米田 浩康
取締役執行役員	高見 茂宏
社外取締役	少徳 健一
社外取締役	小林 博之
社外取締役	石渡 真維
社外監査役(常勤)	八木 仁志
社外監査役(常勤)	黒田 俊典
社外監査役	永野 竜樹
社外監査役	池田 聡
専務執行役員	西本 亮司
常務執行役員	渡辺 政明
常務執行役員	大島 均
常務執行役員	藤原 宣人
執行役員	小佐々 大造
執行役員	塩飽 諭之
執行役員	館林 稔弥
執行役員	石田 史郎
執行役員	立花 浩一

●株式の状況

発行可能株式総数	150,000,000株
発行済株式の総数*	97,367,600株
株主数	24,507名

*2025年12月1日付で株式分割(1株→2株)を実施

●所有者別株式分布状況



●大株主の状況

株主名	持株数(株)	持株比率(%)
名古屋鉄道株式会社	15,000,200	15.46
有限会社ゼウスキャピタル	12,000,000	12.37
山口 誠一郎	10,799,538	11.13
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	8,531,600	8.79
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 505001	3,829,590	3.94
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	3,179,400	3.27
GOVERNMENT OF NORWAY	2,235,834	2.30
きらぼしキャピタル東京Sparkle投資事業有限責任組合	2,000,000	2.06
CACEIS BANK, LUXEMBOURG BRANCH / AIF CLIENTS ASSETS	1,818,400	1.87
HOST-PLUS PTY LIMITED-HOSTPLUS POOLED SUPERANNUATION TRUST HOSKING PARTNERS LLP	1,491,800	1.53

*持株比率は、自己株式(361,550株)を控除し、小数点以下第3位を切り捨てて算出しております。

株主メモ

事業年度	12月1日から11月30日まで
定時株主総会	毎年2月下旬
基準日	11月30日
剰余金の配当の基準日	5月31日、11月30日
単元株式数	100株
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒183-0044 東京都府中市日鋼町1-1
事務取扱場所	電話0120-232-711(フリーダイヤル)
公告方法	電子公告 (https://www.toseicorp.co.jp/ir/publicity/) ただし、電子公告によることができない事故その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載して行います。

連絡先・電話お問い合わせ先・ご注意

証券会社に口座をお持ちの場合	お取引の証券会社になります。 ご注意: 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。
特別口座の場合	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 東京都府中市日鋼町1-1 郵送先: 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 0120-232-711(フリーダイヤル) ご注意: 株式売買はできません。

T O S E I

都市に、心を。



東京証券取引所プライム市場
(証券コード：8923)



シンガポール証券取引所メインボード
(証券コード：S2D)



トーセイ・リート投資法人
(証券コード：3451) ※
※トーセイ・アセット・アドバイザーズが
資産運用を受託する投資法人



NEW

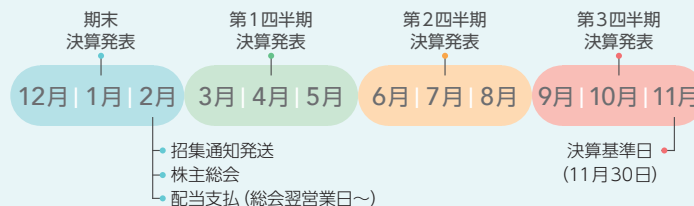
「統合報告書2026」 発行のお知らせ

アンケートも設置していますのでぜひご一読の上、
ご意見・ご感想をお送りください。

[https://www.toseicorp.co.jp/ir/
irlibrary/integratedreport/](https://www.toseicorp.co.jp/ir/irlibrary/integratedreport/)



● IR カレンダー



〒108-0023 東京都港区芝浦4丁目5番4号
田町トーセイビル TEL. 03-5439-8807